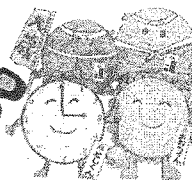




心和得天真

～心和して天真を得る～

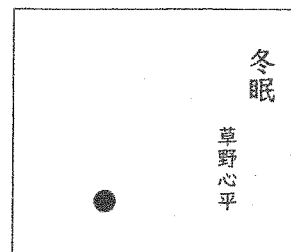


山口市立大歳小学校
学校だより
令和7年1月

あなたも わたしも みんないい

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、お健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年中は、本校教育活動に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、2学期末に、5年生のある学級で国語の授業をさせていただく機会がありました。教材として提示したのは、右の「冬眠」という詩です。この詩は、「蛙の詩人」と称されるほど、カエルを題材とした詩を多く発表した詩人、草野心平氏の作品で、子どもたちは4年生の時に草野氏の「春のうた」という詩を学習しています。「●」だけで表現されたこの詩、どう読めますか？



子どもたちには、読みのカギとして、カエルの様子を綴った「春のうた」と「秋の夜の会話」という2つの詩を提示し、題名は伝えずに「冬の詩」であることを示しました。

「カエルが死んだことを表している」「冬眠しているカエルの姿」「無言で寝ているので文字がない」「カエルが見えているものだから●なんだ」「カエルが冬眠している位置を示している」「カエルの卵」「新しい命」「カエルが出てきた穴」「寂しいと思うカエルの心の大きさ」……

次々と出される子どもたちの考えの、なんと豊かなことでしょう。「●」ではなく余白に注目して「冬眠の穴と雪景色」と考えた子や、「産卵するカエルの苦しみ」だと考える子もあり、授業者という立場を忘れて、感心しきりでした。

さらに感激したのは、授業後半に書いた振り返りの記述です。「自分の考えをしっかりと読み取れてよかったです。みんなそれぞれの考えがあって、みんなの考えが聞けて、とても楽しくできたのでよかったです。」「私の意見が多いかと思ったけど、友達の意見を聞いていると別の意見に気づけました。」など、他の人の考えを価値付ける内容が全てのノートに見られました。中には「考えられなかった人もいたけど、それほど考える力が強いと思いました。」という記述もあり、そのように友達を認められる素敵な考え方に心が震える思いでした。

お示ししているとおり、本校は「ふるさとを愛し 自他のよさと可能性をつむぎ合う 大歳っ子を育てる」という学校教育目標を掲げています。

2つの短い詩という情報をもとに、想像力を働かせ、文から根拠を見出し、しっかりと自分自身の考えをもつことができる姿。それを教室で伝え広げる力。友達の考えを認め、友達が考えている姿をも価値付けられる心。たった1時間の授業の中でも「自分のよさと可能性」「他者のよさと可能性」を紡ぎ合っている子どもたちの具体的な姿を垣間見、あらためて大歳っ子の素晴らしさを実感することができました。



校長室の2025年カレンダーは、
子どもたちの手作りです

新しい年が始まりました。2025年は「乙巳（きのとみ）」の年です。努力が実を結んだり、新しい成長が期待されたりする年といわれています。干支の意味に限らず、子どもたちは常に様々な努力を結実させ、日々成長していますが、特に3学期は、今年度の締めくくりを図っていくとともに、新しい学年に向けての準備も始める貴重な期間でもあります。学校教育目標や育てたい子ども像を再確認し、より確かな教育活動を展開しながら、子どもたちの飛躍を支えてまいりたいと思います。今年も引き続き、保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 岩 政 浩 二